

輸出事業計画

申請者名：Japan potato有限会社 品目：さつまいも

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社の輸出品目であるさつまいもは、収穫量・作付面積ともに全国 1 位を誇る鹿児島県の主要農産物の一つであり、周年で生産できる全国でも数少ない産地の一つになっている。しかし、近年の高齢化や基腐病の影響などにより、作付面積は減少している。当社のある大隅地区においても基腐病を機に廃業する生産者もあり、さつまいも生産者にとって厳しい環境である。

農水省作物統計によると国内出荷量は減少基調にあるが、東南アジアを中心に日本産さつまいもの特徴である甘さが注目され、また、その甘さを活かせる食べ方である「焼き芋」の認知度が急速に広まり、2020年度出荷額で10年前の19.3倍と輸出が急拡大している。

そのような海外需要の高まりに対して、2018年より株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（以下、PPIH）が展開する「DON DON DONKI」への輸出を開始している。輸出拡大に伴い、現地では品質のばらつき、不良品率の上昇、商品の不安定な供給といった問題が発生していた。そうした問題に対応し、現地へのさつまいもの安定供給を実現したのが当社である。

当社のさつまいもは、海外向け商品の適切な選別とキュアリング処理時の温度・湿度設定の工夫により、品質のばらつきや不良品率が低いのが特徴である。2019年に温度・湿度管理ができる自社貯蔵倉庫の完成により、更なる品質の向上及び通年での安定的な出荷が可能となっている。

【課題】

生産面		流通面	
1	需要に対応する増産・調達力の向上	1	需要増に対する貯蔵施設の確保
2	グローバルGAP等の国際認証ニーズの高まり	2	選果場の処理能力向上
3	基腐病対策		

2. 輸出事業計画の取組内容

Japapo

生産面における取組み

1. 増産・調達力向上

- ① 自社農場の作付面積拡大
- ② 県内・近隣協力生産者の開拓
- ③ 千葉・茨城地域からの調達

2. 国際認証取得

グローバルGAP認証の取得

3. 基腐病対策

土壌改良・肥料等の実証実験

流通面における取組み

1. 貯蔵施設の確保

- ① 自社倉庫の建設
- ② 千葉・茨城地域での倉庫取得

2. 選果場処理能力向上

選果場の増設

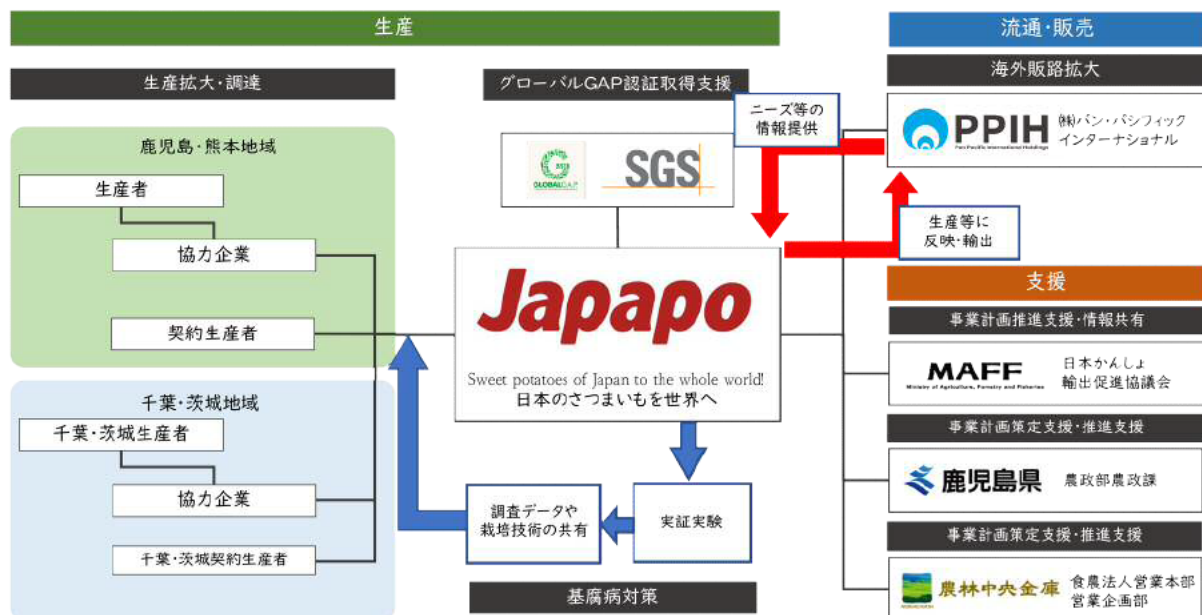


輸出事業計画

申請者名：Japan Potato有限会社 品目：さつまいも

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

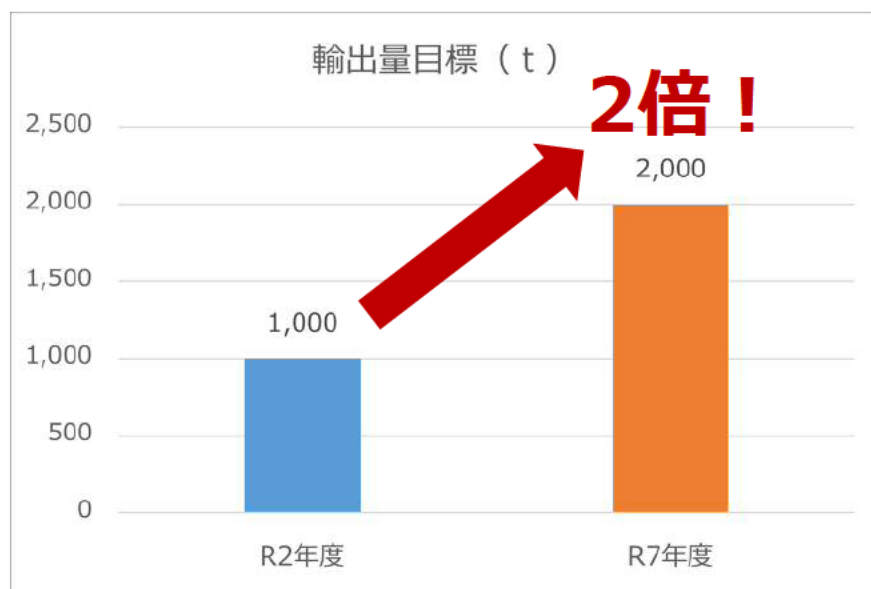
輸出事業計画の推進体制



4. 輸出目標

2025年度（令和7年度）目標：2,000 t

「DON DON DONKI」の outlet に合わせて各国の輸出量が伸びている。2021年には台湾、マレーシア及びマカオにて新店がオープンし、輸出を開始した。PPIHは東南アジアを中心に今後も出店を継続していく予定であり、それに沿う形で拡大する需要に対して生産供給面、流通面の体制を整えていく。



輸出先国

シンガポール
香港
タイ
台湾
マレーシア
マカオ
その他PPIH出店国

